

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	公立大学法人横浜市立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	コウリツダイガクホウジンヨコハマシリツダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F114210104616
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	神奈川県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	公立大学
	科目名	キャリア形成実習(横浜の産業と企業理解)
	学部・研究科等名	キャリア支援センター
	担当教職員名・役職	吉永崇史(キャリア支援センター長、国際商学部教授)、河瀬恵子(キャリア支援コーディネーター)
	受講者数実績年度	令和5年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	36
	受入企業等数	1
	受入企業等名	京セラ株式会社(研究開発本部 オープンイノベーション推進部)
	産学協議会の整理上の類型	2.タイプ2(キャリア教育)
	キャリア形成支援活動の分類	6.低学年(大学1年次~2年次程度)を対象としたキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次~4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 9.大企業・グローバル企業でのキャリア形成支援活動 11.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のキャリア形成支援活動 12.その他
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	外国人留学生と日本人学生が学び合う共修講義による、多様な背景を持つ学生に対するキャリア形成支援活動とダイバーシティ教育活動の推進を行っている。	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等) 3.その他
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	協力企業ならびに地域自治体職員とともに、キャリア展望ダイアログを実施している。
	1-3.上記回答内容に関する詳細	外国人留学生と日本人学生という多様性の高い学生がチームを組み、地域企業の社会課題解決を推進するPBL型プログラムである。企業等における社会課題解決事業の事例学習を行いながら、アイデア創発等を基盤とした企業提案を行っている。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	2.当該キャリア形成支援活動は、キャリア教育科目として実施している 6.当該キャリア形成支援活動は、選択科目として実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している 9.その他
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	文部科学省認定制度「留学生就職促進教育プログラム認定制度*」におけるキャリア許育プログラム履修必須科目として設置している。 ※プログラム名:YCU-ADVANCE Program
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部1年 大学 学部2年 大学 学部3年 大学 学部4年 大学院 修士1年 大学院 修士2年

項目	確認事項	届出内容
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 1単位 大学院 1単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	本講義は、本学における教養教育を担う共通教養教育科目群の一科目として設置されている。配当年次を全学年とし、さらに推奨履修年次を学部1年次とすることで、学部2年次より開始する専門科目の履修に向けた知識と素養の獲得を目指している。また、開講時期については、地域企業の職場を訪問し、一定の時間をかけて課題解決を行うため、他科目履修の妨げとならないよう、夏季休業期間中の開講による前期集中科目として設置している。
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	協力企業のみならず、地域自治体の産業発展に関する事前の文献調査を行うことで、学習到達目標に掲げる地域産業発展の理解が促進されることを目指している。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている 4.その他
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	キャリア形成関連科目の履修促進を実施。本講義履修終了後も継続的に、大学が提供するキャリア形成支援科目を履修する導線を構築している。
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	インターンシップ専門人材である担当講師(キャリア支援コーディネーター)による、学生個別面談ならびに、協力企業とのフィードバック面談を実施している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	「事前オリエンテーション」を開講前に実施し、学習到達目標や、協力企業の事業活動理解、また地域産業の発展に関する関連文献の調査を実施している。加えて、履修生同士の相互理解を促進する対話の時間を設置することで、開講前より心理的安全性が確保された講義環境の整備を推進している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	講義感想文の作成を通じて、出身国が異なる学生との協働から学習したことや困難に感じたことなどを言語化し、省察する機会を設置している。また、経験学習理論を基盤としたリフレクション(振り返り)シート作成を行うことで、本講義の学修を通じて認知した自身の強みを概念化し、今後の学生生活の行動計画について展望している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	講義開講中、講義参加を通じて気付きを得たことを言語化する習慣を身につけさせている。この内容を、担当教員のみならず、履修生全員へ共有することで、各々の学生の成長度合いを可視化し、学生同士で刺激を受け合うことで教育的効果を高めることを目指している。また、協力企業に対しても、講義終了後、学生のグループワーク指導等に関する感想フィードバックを受ける機会を毎回設け、講義の質的改善に務めている。

項目	確認事項	届出内容
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	全学的に実施している授業評価アンケートの結果をキャリア支援センター内で共有し、本講義で学修するキャリア教育と、当該センターで提供する就職支援の接続を図っている。
	4-3.上記回答内容に関する詳細	定量的な効果測定として、授業評価アンケート実施による学習効果と講義改善点の分析が挙げられる。また、定性的な効果測定として、インターンシップ専門人材である担当講師(キャリア支援センター所属)による個別面談の実施が挙げられる。面談を通じて確認された、学生が抱くキャリア形成に対する悩みや、他者との協働に際してより教育的対応が必要とされる要素について、キャリア支援センター職員へ情報共有を行うことで、本学におけるキャリア教育が全学的な取り組みとして推進され、多様化を増す学生のキャリア志向へ対応する力を向上させている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	実施期間:3日間
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
5-3.上記回答内容に関する詳細	開講期間内における講義概要は次の通りである。①1日目:自己理解・他者理解ワークショップ、②2日目～4日目(3日間):協力企業への職場訪問ならびに就業体験(オープンイノベーション担当部署責任者と社員によるアイデア創発演習)、③5日目(最終日):成果発表ならびにキャリア展望ダイアログ	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、就業体験実施期間中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	企業開拓にあたり、自治体による協力を仰ぎながら推進している。
	6-3.上記回答内容に関する詳細	講義準備から講義進行、講義後の振り返り等に係る一連のプロセスの中で、協力企業と学習到達目標の意識すり合わせと講義改善の打ち合わせを、インターンシップ専門人材である担当講師が中心となり複数回に渡り実施した。このことで、地域企業が強力に関与した実践的な講義の推進を目指した。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	①シラバス https://cmweb.yokohama-cu.ac.jp/campusweb/slbsbdr.do?value(riyunen)=2023&value(semekikn)=1&value(kougicd)=PCD21250&value(crclumcd)=1922910000 ②プレスリリース https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2023/20230804careerdesign.html ③実施報告(最終日の様子) https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2023/20231117career_keisei.html
問い合わせ先	大学等名	公立大学法人横浜市立大学
	担当部署名	学生支援課キャリア支援担当
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	佐藤 美友
	電話番号	045-787-8928
	メールアドレス	career@yokohama-cu.ac.jp